

## 平成 24 年度 第 6 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

### 1 開催日時

平成 25 年 1 月 22 日（火）18：00～20：00

### 2 開催場所

札幌市役所 18 階 第四常任委員会会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小山委員、山下委員、山本委員

#### (2) 札幌市職員

財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、交通局総務課長、水道局総務課長 他 8 名

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 委員長あいさつ

#### (3) 報告事項

#### (4) 抽出工事等の決定・審議

#### (5) 意見交換

#### (6) その他

#### (7) 閉会

### 5 審議概要

#### (1) 報告事項

○ 工事等発注状況について（平成 24 年度 11 月末）

【蟹江委員長】 工事、業務とも、最低制限価格でのくじ引き発生率が高い。このことは、市場ではなく、発注者側で設定した価格で入札せざるを得ない状況になっているものと考ええる。

【札幌市】 土木系の工事等は情報公開により単価がほとんど公表されている状況であり、生活道路工事などは積算が容易なため、くじ引き発生率が高い。

【小山委員】 地質調査業務の平均入札参加者数が平成 23 年度、24 年度とも 40 者以上という状況だが、これは発注件数が少ないことが原因か。

【札幌市】 発注そのものが少ないということがある。

【蟹江委員長】 測量業務では、参加者もくじ引き前提で入札していると思われる。

【札幌市】 測量業務については、従前2等級だったところ、委員会からの提言により3等級とした経緯があり、その結果、平均入札参加者は30者程度と従前よりも抑えられている状況である。

【岡田委員】 平成21年度に様々な制度改正を行っているが、その結果はどうか。

【札幌市】 平成21年度までは予定価格の事前公表だったところ、事後公表に改正し、あわせて最低制限価格等の率を整数値から小数点第2位までに改正している。これらの改正により一旦くじ引き発生率は減少したが、一方では、情報公開が進んだことから業者の積算精度が向上しており、現在のような状況になっていると認識している。

【山本委員】 地質調査業務において、失格者が100%発生しているのはなぜか。

【札幌市】 積算精度が向上しているのは間違いないが、積算しにくい部分もあり、業者の積算レベルによっては最低制限価格を下回って失格になると思われる。

【蟹江委員長】 地質調査業務では入札参加者が多いことも背景にあると考えられる。

【蟹江委員長】 落札者がくじ引きにより決定するといった傾向は、他の政令市でも同様か。札幌市のくじ引きに係る状況について特徴があるかどうか、また、そのことと品質の確保がどのくらいリンクしているかも、今後の検討を進めるうえで参考にする必要があるかもしれない。

【小山委員】 くじ引きが多くなったことにより品質が悪くなったのであれば問題だが、そうでなければ特に問題ではなくなる。

○ 意見書に対する市の対応状況について

【小山委員】 分析事例の測量業務におけるくじ引き複数落札制限は、どのようなスケジュールで実施しているのか。履行中の測量業務があれば、入札を制限するなどあるのか。

【札幌市】 発注件数はある程度分散して出しており、また、制限はない。今年度の測量業務に関しては、平成23年度と比較すると、1件のみ受注した業者数は微増し、2件以上を受注した業者数は微減している。このことから、受注機会の確保を目的とした制度の効果はわずかではあるが表れているものと考えるが、結果については今後とも注視していきたい。

【山下委員】 会社の規模として、小さい企業が多いことが良いのか、また、ある程度の規模を持った企業を育成するようにした方が良いのか判断が難しい。現在は、現状を維持するために、ランクを分けて平等に受注機会を設けるという方法であるが、零細企業をそのまま維持することが良いことなのかと思う。

【蟹江委員長】 どこまで札幌市の責任として実施していくかは、考えなければならない課題である。市の方針としては、価格勝負の時代ではないので、なるべく登録業者の受注機会を確保しようという発想か。

【札幌市】 受注の機会を少しでも確保するという方針である。また、くじ引きにより過大受注となって品質に影響が出るような状況にならないように、ある程度ばらけた方が品質の確保につながるものとする。ただし、発注量が少ないことから、受注できない業者は必ず生じてしまう状況である。

【蟹江委員長】 発注量に対する業者数の適正規模がどの程度か、また、その適正規模まで絞り込むための方策については、政策的なことになる。

【小山委員】 登録しているにもかかわらず入札に参加していない業者は、次年度は入札参加資格なしというようなペナルティーを科す方法も考えられる。そのような業者は零細企業に多いのか。

【札幌市】 測量業務では、A等級よりもB等級の方が参加率が高く、平成23年度と比較すると、参加率は横ばいである。

【蟹江委員長】 名簿登録の期間はどれくらいか。登録時に各企業の活動実績などのデータは提出されるのか。

【札幌市】 名簿は2年単位である。業務であれば財務諸表関係の書類の提出が必要である。

【蟹江委員長】 実態のない企業は、そこで排除されるという仕組みである。

## (2) 抽出工事等の決定・審議

### ○ 抽出工事等の決定について

蟹江委員長により選定された2案件について、審議を行うことを決定した。

### ○ 旭山公園米里線舗装路面改良工事について

【岡田委員】 成績重視型の基準点を設定する際、上位何%ではなく、20者以上としているのはなぜか。

【札幌市】 競争性を確保するために参加者が20者以上いることを発注の原則としており、成績重視型についても、その原則の中で運用しているところである。

【山下委員】 平均入札参加者数を見ると、20者に満たないような工種もある。例えば、全てに成績重視型を導入した場合、さらに参加者は減少するという事か。

【蟹江委員長】 実際に参加する企業は10者程度でも構わないが、入札に参加できる企業が20者いなければならないという理解である。全員が参加するわけではないことから、全てに導入すれば、減少すると思われる。

【札幌市】 発注時期によっては、参加資格はあっても、手持ち工事の関係で参加できない企業もあり、現状、該当する全企業が参加しているものではない。

【小山委員】 成績重視型の工事成績点を見ると、舗装Aについては、成績重視型ではない工事より点数が悪く、成績重視型を実施しない方が良いのではないかという議論はあり得る。成績重視型ではない工事の点数が高いということは、次年度以降、成績重視型に参加できる点数は高くなるということか。

【札幌市】 高くなる可能性はある。制度の趣旨としては、直近で良い成績を修めた企業が継続して良い成績を修め、優良な企業として成長することを期待したものである。工事の成績が悪ければ、今後、成績重視型には参加できなくなり、そのことが一面としてはペナルティーとも言える。

【小山委員】 難易度の高い工事を成績重視型で発注し、そのことにより点数が低くなったということはあるか。

【札幌市】 同規模程度の施工実績を求めることから、企業側の経験がないということではない。成績点は配置技術者の経験の有無によっても変わってくる。経験が乏しい技術者を配置し、その結果成績が悪ければ成績重視型には参加できなくなるが、それは企業側の戦略の問題である。検証を続けた結果、成績点が通常の工事よりも低いということであれば、場合によっては成績重視型は意味がないということにもなる。ただし、現時点では件数が少ないことから、もう少し試行を続け、その結果について委員会にご報告したい。

○ 西野宅造 170 号線生活道路整備工事について

【蟹江委員長】 数量が明記されていて、単価がわかっているれば価格が正確に算出できるとというのが現状である。

【山下委員】 単価の見直しは定期的に行っているのか。

【札幌市】 毎月変わる単価もあるが、それも公表されている。

【小山委員】 予定価格が万単位となっているが、これを1円単位にすることで積算しづらくなるのではないか。

【札幌市】 積算方法等については公表している。変更当初は効果が現れたとしても、しばらくすると元に戻ると思われる。

【蟹江委員長】 くじ引きの現状について、業界団体はどのように考えているか。

【札幌市】 60 者ほどのくじ引きとなると確率的に当たりにくく、業者数をもう少し抑えてほしいという話は聞くこともある。参加者は、春先の発注であれば多くなり、秋口になると減少してくる。

【蟹江委員長】 発注時期を分散させるという話があったが、現状は、年度初めに仕事を確定させたいというところで参加者が多くなり、その後減少していくという傾向にある。いずれにせよ、60 者のくじ引きとなると確率的に難しいと思われる。

(3) 意見交換

【蟹江委員長】 これまでの審議内容を振り返ると、まず、くじ引き対策をしてきたにも関わらず、現状は価格競争ではなく、抽選により決定するところが多くなってきているのが実態である。

【岡田委員】 等級の見直しといった要望はないのか。

【札幌市】 現状では、要望はない。

【蟹江委員長】 成績重視型では、参加可能な上位 20 者の業者の中で入札を行うこ

とにより、通常の案件より落札しやすい環境にある。しかし、その一方で、通常の入札で落札できない業者が多数いるとすれば、成績を評価される機会を与えられないことになり、そのことが成績重視型へ移行しにくくなる環境を作りかねないと考ええる。成績重視型に移行していくことは良いことではあるが、落札しやすい環境をある程度作っておかなければ移行することが困難になると、心配している。

【山本委員】 例えば、成績を評価する機会を与えるために、受注できなかった業者に優先的に入札させるといったインセンティブを与えることはできないか。

【札幌市】 平均的に受注機会を設けることについては良いが、受注できなかった業者限定で入札を行うことは割り付けにつながりかねず、そのような手法はとっていない。

【蟹江委員長】 発想としては、割り付けに近い形で業者の能力をチェックするという手法であるが、割り付けと言われれば実施は困難である。受注機会を与えるかわりに、今後、成績重視型を拡大していくという戦略は考えられる。

【山本委員】 近年が過当競争ということであれば、例えば10年程度、過去に遡っての評価という手法はどうか。

【蟹江委員長】 評価方法が変わっていること、絶対評価ではないことから、困難と思われる。

【札幌市】 本市としては、通常の一般競争入札で受注し、良い成績を修め、成績重視型に参加していただくというのが理想である。

【蟹江委員長】 今までは、より良い調達という観点で、技術力の高い企業に仕事していただくことを基本的な考え方としてきた。別の考え方として、災害時等に対応できるような地域への貢献の度合いを評価するという手法はないか。

【札幌市】 地域貢献の評価ということであれば、総合評価方式で実施している。本市としても、地域に貢献する企業には残っていただきたいところだが、地域貢献の対象をどこまで広げるかについては、判断が困難である。例えば、災害時に対応できるような重機を保有している企業を評価するといった手法はあり得ると考える。

#### (4) その他

今年度の意見書について、素案作成の上、次回の委員会で審議することを決定した。

以上